



発行・カトリック水巻教会  
編集・広報委員会  
遠賀郡水巻町頃末南1丁目35-3  
〒807-0025  
TEL 093(201)0680 FAX(201)7354  
第344号

ホームページアドレス <http://mizumaki-church.sakura.ne.jp>

## 神は決して音を上げない父親 マヘル神父

2016年に入りましてお正月も過ぎ、日常生活の忙しさに戻ってきました。

今年の復活祭は早く、もうすぐ四旬節に入ります。これも個人と共同体の「旅の為」の大きな恵みとなるでしょう。

今年はパパ様の定めによって、いつくしみの特別聖年になりました。聖年のモットーは「あなた方の父が憐れみ深いようにあなた方も憐れみ深いものになりなさい。」

教皇フランシスコの特別聖年公布の書からの引用があります。(イエス・キリスト父のいつくしみの御顔)

「私達の眼差しをもっと真剣にいつくしみへと向けるよう招かれる時もあります。私達が、御父の振る舞いを示す効果的なしるしとなる為です。これこそ、私がいつくしみの特別聖年を公布した理由です。この特別聖年は、信者の証がより力強く、より効果的になる為に、教会としてふさわしい時となるでしょう。」(no.3)

「憐れみを起こすことは神に固有なることであるとされ、また神の全能は何より第一に憐れみを置いて明示される。」聖トマス・アクィナスの言葉は、神のいつくしみ弱さのしるしではなく、むしろ神の全能の現れであることを示しています。典礼が、最古の集会祈願の一つで次のように祈るのはこのためです。

「全能の神よ、あなたの赦しは限りなく、その憐れみは全てに及びます。」神はいつも人類の歴史の中におられます。そこに現存し、すぐそばで先を進む、聖なるいつくしみ深い方としておられるのです。」(no.6)

「いつくしみのたとえの中でイエスは神の本性を明らかにされます。それは、憐れみといつくしみによって、罪から解放し拒絶を砕くため、決して音を上げない父親の本性です。私達はこれについての例え、特に三つの例えを知っています。見失った羊の例え、無くした銀貨の例え、そして放蕩息子の例えです。

(ルカ 15. 1) これらの例えの中で、神は常に喜びに満ちた方、とりわけ赦しを与える時に喜ぶ方として描かれています。ここに私達は負因と自分たちの核を見出します。そこではいつくしみが、全てに打ち勝つ力、心を愛で満たし、赦しを与えて慰める力として描かれているからです。……ご承知の通り聖書

レプトン会よりお知らせ	2面
カリタス修道女会報告会	3面
ホルヘ神学生の講和	4面
エルピス会の紹介	5面
冠婚葬祭	6面
パウロの歩いた道	7面
お知らせ・教会学校のページ	8面
幼稚園から	8面

ではいつくしみ私達へと向けられた神の行為を指すキーワードです。神はご自分の愛を約束なさるだけではなく、それを見えるもの、触れることのできるものとなさいます。やはり愛は、決して抽象的な言葉ではありえません。愛はその本性から具体的な営みです。日常生活の中で確かめることのできる、意図的であり、姿勢であり、行動です。神のいつくしみは私達に対する神の責務なのです。神は責任を感じています。私達の幸せを望み、私

達が幸福で、喜びと平和に満たされているのを見たいのです。キリスト者のいつくしみに満たされた愛は、その神の愛と同じ波長を持たなければなりません。御父が愛しておられるのと同じように、私達もまた、互いにいつくしみ深い者となるように招かれています。」(no.9)

私達は、教皇フランシスコの指導を頂き、この一年に向かって神様の恵みを期待していきましょう。

## 水巻カトリック教会 レプトン会の皆様

† 主よ、私達に慈愛の心、あなたのいつくしみの心を教え、  
実行できるお恵みをお与え下さい！

昨晚、奄美の休暇を終え、早速、今朝、皆様からのいつもの愛の支援、金¥400,000を受け、思わぬ大金にびっくり、感謝し、皆様お一人おひとりのご意向、ご健康を祈るため、聖堂へ……。

ロザリオの祈りを捧げさせて頂きました。ひとつの信仰、同じ洗礼、そして生きた生命のパン・キリストに結ばれた“きづな”を大切に、日々、成長、受容されたいと思います。 祈りと感謝の中で……

2016年1月16日

Sr.Aquilina 恵



## レプトン会主催、イエスのカリタス修道女会ペルー共同体 報告会(1月17日)

上記の修道会のシスター恵(めぐみ)英代さん、シスター村田智恵子さんが来訪され、レプトン会が支えるペルーの施設・マリア・タキ保育園等の紹介が、スライド映像を伴いながら行われました。施設の中心場所は、コメドール・インファティー(子どもたちの食堂)。この部屋で交流が深まります。最初に子供たちがよく歌う楽しい歌が少し披露されました。

「Un Salo Senior」♪(ウン・サロ・セニョール) Un Salo Senior, Un solo Fe, Un solo Bautism, Un solo Dios y Padre(一つの我らの主、一つの我らの信仰、一つの我らの洗礼、一つの我らの父である神)・・・もう一曲、歌われました。He decido Seguir a Cristo. No Vuelta atras. ♪(私はキリストについて行くと決めた;あつさりすることなく。)

この施設ができた経歴について説明がされました。(宮崎カリタス修道女会の)マリア・タキ(第1のシスター)が、ペルーへ赴き、クスコ、リマ、再びクスコ。パンプロナ・アルタを経て、サン・ガブリエルへ移動。そこでは、長年放置されてきた、言わばゴミ置き場に、施設が。建物が建つまでには、荒れた土地を掘り、石を入れ、地盤が固められました。(映像で、施設の建造開始の時が映されました。)日本大使館からも援助が。そこで落成式では、「ビバ・ペルー、グラシアス・ハポネ」(ペルーに万歳、日本に感謝)の言葉で、いわば万歳三唱が行われました。

映像では、施設の日々の暮らしが見せられました。日本から送られてきたピアノとか。また、ペルーでは四旬節が年2回あって、様々な行事で盛り上がります。最初にも書いたコメドール・インファティー(子どもたちの食堂)で食事が取られて、交流の拠点になっています。(写真がスクリーンに映写される。)今90名の子どもたちが来ています。しかし、その3分の1は、夕方、お母さんが待つ家に帰ってゆき、食堂の夕食時まで留まることはありません。映像の最後に、「アモール、フェ・イ・レスペト」(愛、信頼と尊敬)と字幕が出て、終わりました。

**映像を伴った解説の後、シスター恵が、自らの生い立ち紹介:**(シスターとなり、ペルーで働くようになった経緯を語られました。)シスター恵は、奄美大島出身。12歳になるとき、マリア・タキの働きを目にし、20歳でシスターになりたいと思った。その頃の冬に、24名がシスターになり、パードレ・アントニオが随分と喜んでくれました。シスターになってからブラジルへ行きました。始めサンパウロ、次いでサンタ・クルーズに行きました。犯罪も多い場所で、包丁をかざしている人まで居ましたが、欠かさず祈りを行ったロザリオに守られ、命を落とすことなく生きてきました。イエスは貧しく生まれました。私も奄美で貧しく生まれました。1つの小さなパンにキリストが居られ、世界のカトリックの信者たちが力を得ています。(広報、三谷)



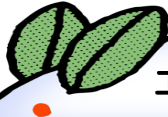
## ホルヘ神学生の「最終講話」グアダルupesの聖母と送別会

1月24日



ホルヘ神学生が水巻教会に来訪される最後の日となり、メキシコのグアダルupesの聖母についての話が、送別会を兼ねて行われました。大雪の日で参加者は少なかったですが、アットホームな感じで会合が持たれました。今月号は写真のみ掲載、来月号にメキシコの奇跡の聖母のご絵「グアダルupesの聖母（布を伴った絵）」の話を掲載します。





## エルピス会活動（先月号に活動紹介）の画像を掲載します。

下記の画像に、文字も含まれていますが、「ボリビアでは日本と異なり国等からの障害者への援助はなく、障害者自立支援施設「聖マルティンの家」が野原によって始められた」とあります。めいめいの誕生日、支援のお陰で買って頂いた器具、施設等の写真がふんだんにあります。



ローナルの電動椅子  
 電動椅子が届きました！  
 写真は、正常機能するか試乗して  
 いるところです。以前購入したも  
 のは試し乗りでスロープを往復し  
 たら2度と動かなくなったので  
 す。あれから3年、今度は良く動  
 きます。



## 冠婚葬祭について



昨今、葬儀も多様化しています。まだ、耳慣れない直葬や、家族葬などが増えてきているようです。家族葬は当教会でも望まれる方もおられます。遺族によっては信徒への訃報の連絡を断られる方もおられます。事情があって、遠慮されている場合もありますが、信徒は皆、キリストに結ばれた兄弟姉妹と言われています。遠慮はいりません。多くの人に送られるのは故人の喜びでもあります。

葬儀には、他の宗教の方が多数参列されることが少なくありません。カトリックが、愛の宗教であることを感じ取っていただくよい機会でもあります。説教など大事だと思っています。私ごとですが、出自が仏教のため、仏式の葬式に列席することがあります。こちらでは、導師の「お経」が中心で説教がない場合もあります。「お経」の内容がよくわからない分、説教くらいは聞きたいと思っていますのですが。

比較しがちになりますが、私たちの葬儀では、詩の朗読や聖歌の斉唱、共同祈願等、列席者の参加意識の高揚があります。また、死後の世界を信じているため、主のみもとに帰る希望もあります。

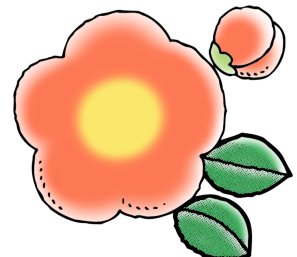
最近読んだ本で、「人間は死んでも、また生き続ける」があります。作者は、親鸞聖人の25代目で、本願寺の法主（大谷氏）です。この本の中に聖書から引用された一文があったので、びっくりしました。

それは「ヨハネによる福音書」の12章24～25節で、この部分がそっくり書かれてあります。一部分ですが、「一粒の麦は、死ななければ一粒の麦であるが、地に落ちて死ねば、多くの実を結ぶ」という箇所です。この一文から、死後の世界を確信されたのでしょうか、フランスに留学の経験もあり、聖書に精通されているようです。宗教が違えども、核心部分は一致するものがあるのでしょうか。

水巻教会の葬儀に関することで、よその一部の教会で作成されているマニュアルの様なもの（帰天に備えて）、を作成してはどうかと、提案がありました。

要・不要の意見もあり、まだ手をつけていませんが、検討にあたいするものとは思っています。基本的には、わからないこととか、疑問に思うようなことがあれば、司祭に相談するのが早道だと思っています。

人間は、自分の意思で出来ることは限られています。自分の命も思うままにならないのです。長生きするもよし、あす死ぬもよし、私たちは、すべては神のみ旨のままにあることを知っています。時が迫っても慌てないでいたいものです。（山本栄）



## パウロの歩いた道・余談 No.13

パウロはどのようにあのような困難な旅を続けることが出来たのか、どうして旅を続けようと思ったのか。聖パウロの旅を読む度に、彼の熱心さに感心します。時々船や馬を利用したとしても、キリスト様の福音を伝えるために大変な距離を歩いたことは驚異でしかありません。ところがこのような大変な旅をしているのに、パウロはそれを自慢したりすることがありません。むしろ旅を続けることで各地の人たちに会ってキリスト様の福音を伝える喜びが書簡に書いてあります。

タルソスのテント職人の家に生まれたことで、聖パウロも手に職を付けていました。その特技を生かして、各地で皆さんに負担を掛けないように、働きながら宣教を続けました。

昔の宣教師は「ほとんどの人が一つずつ特技を持って宣教地に赴いた」と聞いたことがあります。中国雲南省の山奥で見たフランス式のブドウ畑を教えたフランス人宣教師は、中国の奥地に葡萄酒の産地を作りました。長崎で宮大工の「鉄川与助」に教会建設を教えたパリミッション会の神父は九州各地に教会を建てました。長崎の外海の村で色々なことを教えたドロ神父の話を知ると、パウロもそうだったのかと思います。

時々、キリストの心を伝えようとしたパウロの心は現代にも生きていようかと考えることがあります。イエス様は小さくされた人たちや貧しい人たちの中に入って行かれ福音を告げられました。それを当時はファリサイ派であったパウロは見えていたと思います。そして自分が回心した後、自分が人々の中に入って行きました。私はこの考え方は、今の教会の中から抜け落ちているのではないかと思うのです。

教皇フランシスコは、「貧しい人の教会であれ」と言われますが、教会に関係ない時事評論の雑誌などには、すでに反フランシスコの動きがバチカンや欧米に広まりつつあると報じられています。一つの考えには一つの反論があります。しかし、私たちキリスト教徒はイエスキリストに従うこと、イエスが示した道を歩むことが信仰ではないでしょうか。このような文を書いている自分でも、そのようにできないことをいつも反省しています。

20年以上NGOの活動を続けてきました。これは自分で望んで始めたのではなく、教会の先輩から手伝ってほしいと言われ、暇だったので手伝ったことからスタートしました。

このような活動をしていると様々なタイプの人たちに出会いますが、多くの方は、困っている人のためや社会正義のために活動しています。ところが、このような人たちの多くはキリスト者ではありません。北九州の活動団体でキリスト者は私一人です。最近f A C Oの人たちが少しずつ参加してくれるようになりました。今一緒に活動している人たちは、困っている人のために、休日や休暇を使って支援に行きます。この人たちのことについては機会があれば書くことにします。

パウロは自分を捨て、へりくだって仕える人になり、キリストの福音を伝える旅を続けました。私たちは現在の社会で何をしたらよいのでしょうか。 (岩本)



# お知らせ

## ★灰の水曜日★

日 時：2月10日(水)

午前9時30分～、午後7時30分～

※この日は、大斎・小斎です

## ★豊田神学生の叙階★

1月31日に、豊田神学生が水巻教会に来られました。

今度、大阪教区に戻られるそうです。その後、叙階式があるそうです。詳しいことは、来月号でお知らせします。

## ★レプトン会からのお知らせ★

○伊万里トラピストクッキーとワイン

販売収益 34,778円

○イエスのカリタス修道女会ペルー共同体のSr. 恵に、400,000円をお渡ししました。

皆様のご協力、ありがとうございました。これからもペルーの貧しい子ども達への支援を続けていきますので、たくさんの方のご協力をお願いします。

また、新しい会員を募集しています。



## 教会学校のページ

### 初聖体クラス

1月10日

出席者 永山楓海さん

○「主の祈り、アヴェ・マリアの祈り、栄唱、回心の祈り、使徒信条」の祈りをしました。

○テキスト「はじめに」の復習をしました。

○最後に「アヴェ・マリア」のお祈りをしました。



## 水巻聖母幼稚園からのお知らせ

2月29日(月) 10:30～12:00

「みんななかよく」

「ひよこクラブ」「うさぎクラブ」 冬のあそびを楽しもう!

ぜひ、皆さまお誘い合わせの上、ご参加ください。

水巻聖母幼稚園

園長 Sr 松川明子

職員一同